

## 天神さまのモミジ狩り

コロナ禍も昨年に比すれば随分と穏やかに  
なってきた事からか、先月あたりから地方か  
らのご参拝の方も多く目にするようになって  
参りました。コロナ禍が始まって以降、旅行  
に行くのを躊躇われる日々でありましたが、  
これからは一氣に各地の観光地は大変な人出  
になるのではと予想されます。中でもこれか  
らの紅葉は大きな目玉といっても過言ではな  
いかもありません。

当宮の御祭神であられます天神さまこと、  
菅原道真公も、昌泰元年(八九八)の十月二十日  
から十一月一日(現在の十一月下旬)にかけて、朱  
雀院(宇多上皇)と共に吉野宮滝(現在の奈良県吉野)  
へ紅葉見物の行幸に随行されておられ、その  
様子は道真公が書いたといわれる『宮滝御幸  
記略』という記録に残されています。

このとき一行は、廿日に京都を出発し、交  
野、奈良市内、高市郡(現在の高取町)と、秋深  
まりゆく奈良の史跡を巡りながら旅路を進み、  
廿三日に道真公の山荘にて宿泊。そこで和歌  
の会を開き、道真公は

「この度は幣も取りあへず手向山  
もみじの錦神のまにまに」

と、錦繡に染まる奈良の山々の紅葉を、幣帛  
に代えて神さまに捧げ手向けます。という意  
味の和歌を詠まれています。(この歌は後に、菅  
家の名で百人一首にも採録されています)

廿五日に吉野宮滝に到着。宮滝特有の白い  
岩肌にあたる吉野川のせせらぎと、一面の紅  
葉を「白雲紅樹は 旅人の家なり」と感動さ  
れている事が書かれています。その後、宮滝  
を出発され、廿八日に紅葉で有名な竜田山で  
「満山の紅葉 心機を破る」と激賞され、廿  
日に大坂・住吉大社に参拝された後、十一月  
一日に京都に戻られています。

この記録は当時の人々の秋の旅路を知る上  
で貴重な記録であり、錦繡の大和路の紅葉を  
存分に楽しまれた事が今もよく分かる内容で  
す。そうした道真公の時代に思いを馳せ、コ  
ロナ禍の再拡大には注意をしつつ、この秋は  
大和路の紅葉を楽しまれては如何でしょうか。

## 七五三詣のご案内

当宮では七五三のご祈禱を受付けております。  
ご予約制となっておりますので、まずは総  
合受付である、茶屋町の御旅社までお電話か、  
メールにてご予約下さい。

なお、基本的に七五三のご祈禱は神山町の御  
本社にて執り行いますが、参列数五名までであ  
れば茶屋町の御旅社でも執り行う事は可能です。  
※七五三は数え年(満年齢に一歳足すで計算します)

- ・三歳令和二年生(子) 女児(又は男児)
  - ・五歳平成三十年生(戌) 男児
  - ・七歳平成二十八年生(申) 女児
- ご予約は下記まで ○六一六三七一一五八六  
tunashiki@jinja.jp

## 御本社東面 玉垣追加募集について

神山町に鎮座します当宮御本社の東面に、昨  
年、嵯峨天皇行幸一千二百年、今上陛下御即位  
記念として、玉垣を建立しましたが、残柱分  
につきまして奉納の追加募集を致しております。  
ご希望の方は、御本社の本殿前か、東門(裏門)  
掲示板横にあります申込書にてお申し込み頂  
くか、もしくは茶屋町の御旅社までお問い合わせ  
下さいませ。 御旅社 〇六一六三七一一五八六

## 今月の暦

【御旅社授与所(茶屋町) 御朱印平日受付日】  
十一月二十五日(金) 十三時〜十七時の予定

【祭礼】 新嘗祭廿三日…日本全体の秋祭 神事のみ

【節気】 立冬(七日)…秋が極まり、いよいよ冬の気配が立つ頃  
小雪(廿二日)…寒い地域では雪が降り始める頃

【雑節】 七五三(十五日)…子祝 三歳男女、五歳男子、七歳女子

【大安】 十一月一日、七日、十三日、十九日、廿四日、卅日

【朔望】 上弦(一日)、満月(八日)、下弦(十六日)、朔月(廿四日)、上弦(卅日)

【祝日】 文化の日(明治節・三日)、勤労感謝の日(廿三日)

- 【旬】
- 【野 菜】 春菊、ネギ、山芋、牛蒡、ホウレン草
  - 【果 物】 リンゴ、クリ、早生ミカン、キウイ
  - 【魚介類】 秋刀魚、カキ、ホッケ、銀鮭、クエ
  - 【その他】 きこの類、菊、山茶花、柊の花、木瓜

## 網敷天神社SNS、地図サイト

Twitter



Facebook



当宮地図  
Google MAP



筆者 つなしかてんじんしゃ  
網敷天神社 橋宜(御旅社 神主)

白江 秀知

